

表紙について 「おいもさん はやくおおきくなあれ！」

5月10日。気がかりだったお天気も、晴天が広がる「五月晴れ」。今日は、港認定こども園の子どもたちがとっても楽しみにしていたさつまいも苗の植え付けの日。くじら組（5歳児）といるか組（4歳児）の25名が参加しました。

農業委員会の5名とこども園の先生方は、この日朝早くから畑の草を抜き、耕運機で耕して畝を作り、マルチを張って子どもたちの到着を待つことにしました。

農地利用最適化推進委員の岩本さんの指導のもと、子どもたちは小さな手に1本ずつ、柔らかくて長い茎が折れないように大事そうに持って、支柱であけたマルチの穴にそおと植え付けていきました。

「野菜が水を求めて根を伸ばしていく力を信じて、水はあまりやらないで育てましょう」という岩本さんのお話に、ジョウロに水を一杯入れて運んできた子どもたちはびっくりしていました。

「10月には芋ほりができるかな」「早く食べたいなあ」「さつまいもカレーがいい」「焼き芋！」と話が盛り上がり、すでに楽しい芋ほりで頭の中はいっぱいになっているようでした。農業委員の石橋さんの「さつまいもはツルも美味しいよ」との言葉に、秋の収穫の楽しみがさらに増えたようです。

秋の収穫まで約4か月。昨年のようなシカの食害に見舞われることなく、さつまいもが大きく育つことを願いながら見守りたいと思います。
（農業委員 高尾 利美）



さつまいものお話を聞いてます



あきになるのがたのしみ！

職員人事異動

令和3年4月1日付人事異動により事務局職員の異動がありました。

豊岡市農業委員会事務局 次長

前任 上阪 善晴 お世話になりました。

後任 兼井 伸二 よろしくお願ひします。

全国農業新聞を購読してみませんか！



農業の最新情報を提供

週刊(毎週金曜日発行) 月700円
(送料、消費税込)

*お申し込みは
農業委員会事務局または、地元の農業委員・推進委員まで

編集後記

1年以上続く「新型コロナウイルス感染症」によって私たちの日常は一変しました。

何度も繰り返される飲食店や宿泊施設の休業や時短営業による、お米や葉物野菜などの市場価格低下は生産者を直撃し、「コロナによる経済への影響は、農業者にとっても深刻です。」

一方で、自宅を過ごす生活が長引き、「プランター栽培」や、貸農園に挑戦する人が増えていると言われています。「3密」とは縁のない農村の生活に、「豊かな自然環境で生活する」喜びを感じる人も私たちのまわりに多くおられます。

ここ数年、全国的にも注目を浴びることが多い豊岡に興味を持ち、移住希望者や「地域おこし協力隊」の応募者が年々増えているようです。

「コロナ禍からの一刻も早い脱却を願ひながら、これからも豊岡の農業を元気づけ、農業に関心を持つ人々たちを応援し続けたいと思ひます。」

(編集委員長 高尾 利美)



農委だより第49号は私たちが担当しました。

後列左から 瀧下委員、大原会長、宮岡委員

前列左から 高尾委員、平野委員